

岩手県感染症週報

平成25年第14週(4月1日～4月7日)

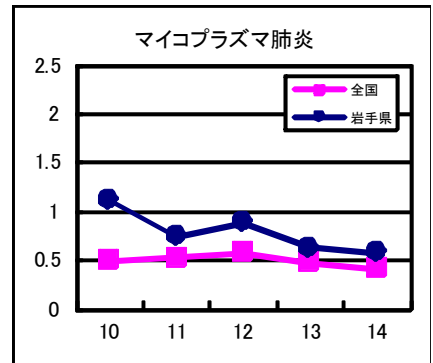
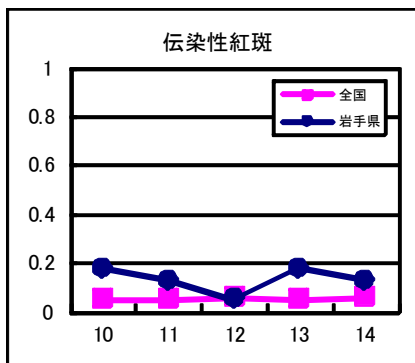
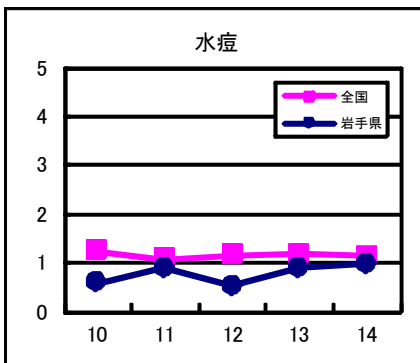
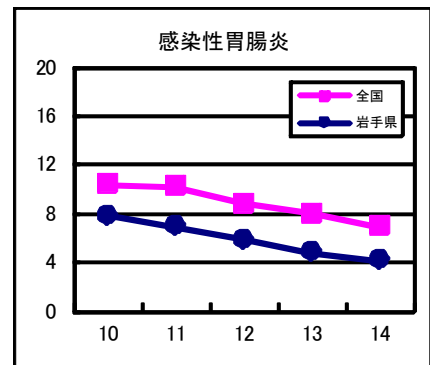
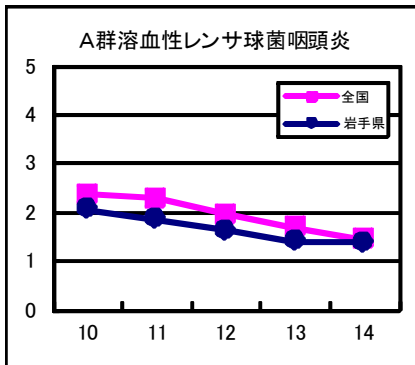
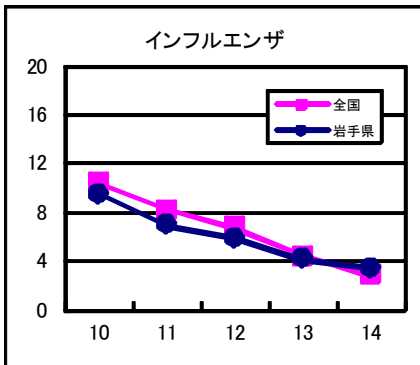
岩手県感染症情報センター

第14週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が4例（潜在性結核感染症1例）ありました。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症（全数把握対象疾患）
 - ・急性脳炎の報告が1例ありました。原因病原体は不明です。
 - ・風しんは、首都圏を中心に患者数が急増しており、県内での発生の動向に注意が必要です。風しんに免疫のない女性が妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風疹症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。妊娠可能年齢の女性で風しんの抗体がない場合には、ワクチン接種が勧められます。
- 5 類感染症（定点把握対象疾患）
 - ・水痘（みずぼうそう）は、今年これまでは過去5年間の同時期に比較して発生数の少ない状況が続いていますが、例年春から夏にかけて患者の報告数が多くなるので、今後の発生の動向に注意が必要です。
 - ・中国で鳥インフルエンザA（H7N9）の患者が発生しました。原因ウイルスは、時には人に感染する動物のインフルエンザウイルスと考えられており、現在のところ人から人への感染は確認されていません。手洗いや咳エチケットなど、基本的な感染予防対策の再確認に努めましょう。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		10	11	12	13	14		
インフルエンザ	岩手県	9.45	6.94	5.86	4.14	3.42	↘	☆
	全国	10.37	8.13	6.75	4.38	2.8		
RSウイルス感染症	岩手県	0.08	0.05	0	0	0.08	→	
	全国	0.34	0.33	0.26	0.24	0.18		
咽頭結膜熱	岩手県	0.1	0.35	0.2	0.13	0.13	→	☆
	全国	0.32	0.32	0.3	0.29	0.27		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.05	1.85	1.63	1.4	1.38	→	☆
	全国	2.37	2.28	1.95	1.69	1.45		
感染性胃腸炎	岩手県	7.83	6.9	5.85	4.8	4.15	↘	☆
	全国	10.39	10.18	8.81	8	6.95		
水痘	岩手県	0.58	0.9	0.53	0.9	0.98	→	☆
	全国	1.23	1.08	1.16	1.18	1.14		
手足口病	岩手県	0.03	0.05	0.03	0	0	→	
	全国	0.2	0.2	0.17	0.17	0.19		
伝染性紅斑	岩手県	0.18	0.13	0.05	0.18	0.13	→	☆
	全国	0.05	0.05	0.06	0.05	0.06		
突発性発疹	岩手県	0.2	0.53	0.48	0.45	0.7	→	☆
	全国	0.48	0.5	0.49	0.51	0.54		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0	0	0.03	0.03	0.03	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.65	0.73	0.75	0.7	0.63	→	☆
	全国	0.25	0.24	0.25	0.25	0.25		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.03	0.04	0.02	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.38	0.62	0.54	0.23	0.14	→	☆
	全国	0.48	0.43	0.45	0.51	0.5		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0.05	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0.02	0.04		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	1.11	0.74	0.89	0.63	0.58	→	☆
	全国	0.5	0.53	0.58	0.48	0.42		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.04	0.02	0.04	0.03	0.03		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) が
10週より対象疾患になりました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		10	11	12	13	14	累計	14	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者数	4 (3)	0 (0)	2 (1)	4 (1)	4 (1)	51 (23)	333	6192
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	2	32
	腸管出血性大腸菌感染症	2	0	1	0	0	3	12	174
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	2	17
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	17
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	1	38
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	4	44
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	5
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	1
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	5
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	5
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	33
	デング熱	0	0	0	0	0	0	4	39
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	14
	野兎病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	1
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	2	
レジオネラ症	1	0	0	0	0	1	8	187	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	1	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

今注目の感染症 (つづき)

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

重症熱性血小板減少症候群 (severe fever with thrombocytopenia Syndrome: SFTS) は、SFTSウイルスによるダニ媒介性感染症です。人への感染は、SFTSウイルスを有するダニに咬まれることによりますが、他に患者血液や体液との直接接触による感染も報告されています。

潜伏期は、6日～2週間で、発熱、消化器症状 (食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)、頭痛、筋肉痛、神経症状 (意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状 (咳、咽頭痛)、出血症状 (紫斑、下血) 等の症状が出現します。

SFTSは、中国で2011年に新規感染性疾患として報告されており、中国ではフタトゲチマダニ、オウシマダニからSFTSウイルスが分離されています。

フタトゲチマダニ、オウシマダニは日本にも生息しており、ダニの活動が活発化するのは春から秋ですので、これからの時期、ダニに咬まれないような対策をとることが必要です。

ダニの居そうな草むらや藪などに入る場合は、ダニに咬まれないよう、長袖の服、長ズボン、足を完全に覆う靴を履き、肌の露出を少なくすることが重要です。

重症熱性血小板減少症候群に関するQ&A (厚生労働省ホームページ)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html



フタトゲチマダニ (写真: 国立感染症研究所昆虫医科学部提供)

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) は4類感染症に追加されました

臨床的特徴

主にSFTSウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染する。

潜伏期間は6～14日。発熱消化器症状 (嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血) を主徴とし、時に、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴う。血液所見では、血小板減少 (10万/mm³未満)、白血球減少 (4000/mm³未満)、血清酵素 (AST、ALT、LDH) の上昇が認められる。致死率は10～30%程度である。

届出基準

臨床的特徴を有し、かつ下記の検査方法により診断をした場合

検査方法	検査材料
分離同定による病原体の検出	血液、血清、咽頭拭い液、尿
PCR法による病原体の遺伝子の検出	
ELISA法又は蛍光抗体法による抗体の検出 (IgM抗体の検出又はペア血清による抗体陽転もしくは抗体価の有意の上昇)	血清
中和試験による抗体の検出 (ペア血清による抗体陽転もしくは抗体価の有意の上昇)	

届出基準 (厚生労働省ホームページ)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-04-43.html>

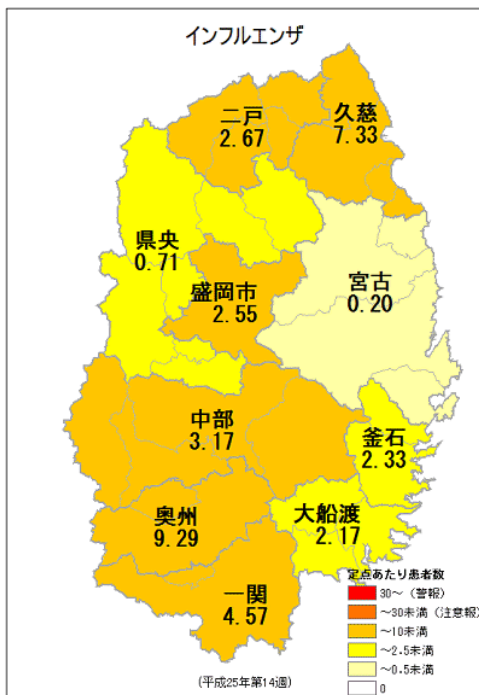
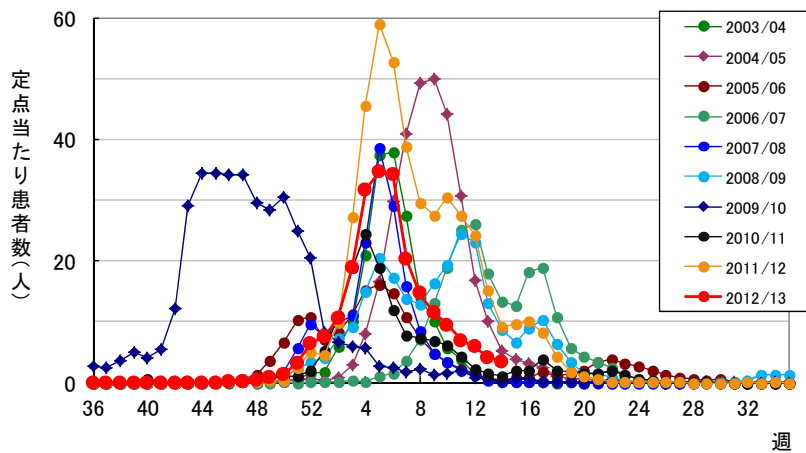
今注目の感染症 (つづき)

インフルエンザ

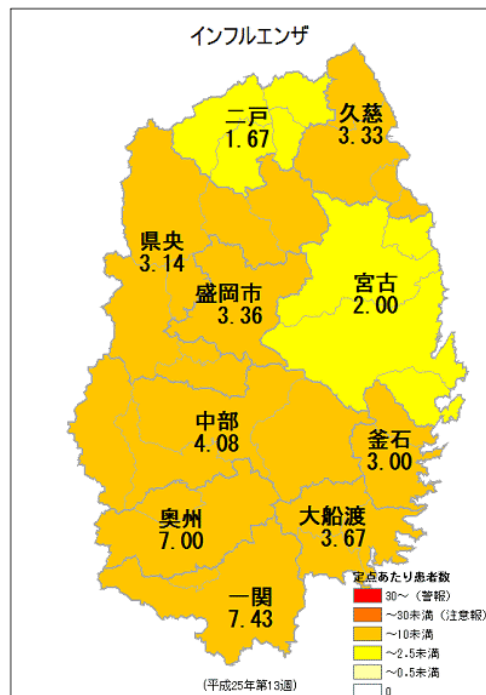
インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原とする気道感染症です。潜伏期間は1～3日間で、発熱(通常38℃以上の高熱)、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然現れ、咳、鼻汁などの上気道炎症状が続きます。約1週間ほどで軽快するのが典型的な症状ですが、いわゆる「かぜ」にくらべて全身症状が強く、重くなりやすい疾患です。症状がある場合や「かかったかな?」と感じた場合は、重症化を防止のため48時間以内の医療機関への受診が勧められます。また、発症後5～7日間はウイルスを排出するといわれており、熱が下がったとしてもすぐに登校(出勤)しない、咳・くしゃみなどの症状がある場合にはマスクをするなど、周囲への配慮が勧められます。

岩手県での今シーズンの発生状況ですが、第50週には流行の開始のめやすである定点あたり患者数1.0人を超え、平成25年第2週には10.55人と注意報値(10人)を超え、第4週には31.63人と警報値(30人)を超え、第5週に34.58人とピークを迎えました。その後、第6週から減少し続け第14週には3.42人となりました。新学期を迎え、学校や施設などの集団生活の場では感染予防対策を再確認に努めましょう。

インフルエンザ、岩手県



第14週



第13週

病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

- ・一関市内の保育所（児童数88名、職員数27名）
4月2日（火）から4月10（水）にかけて16名（児童16名）に症状（嘔吐、下痢等）
有症者6名中6名（児童6名）からロタウイルスを確認

○インフルエンザによる学校等の休業措置について

- ・3月27日以降4月11日まで、学校等の休業措置はありません。
- 詳細は、岩手県医療推進課のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=4104&ik=1&pnp=3324&pnp=4104>

医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

Q & A

読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

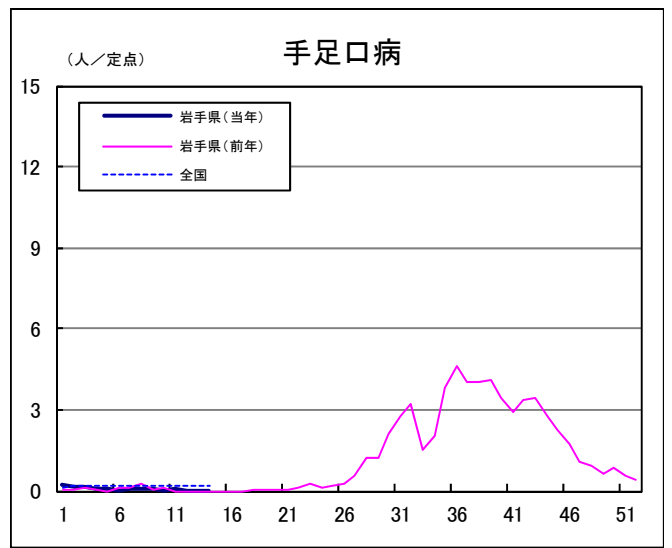
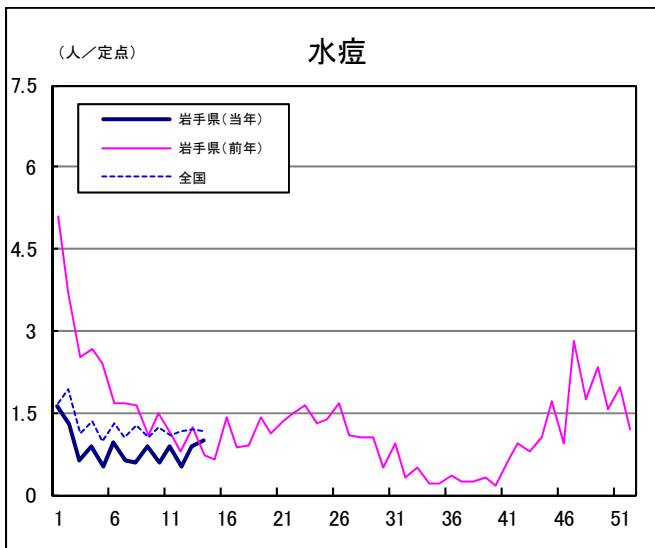
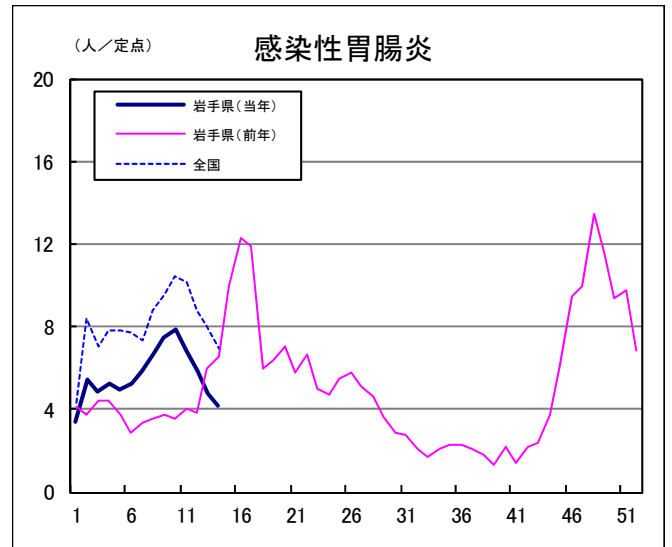
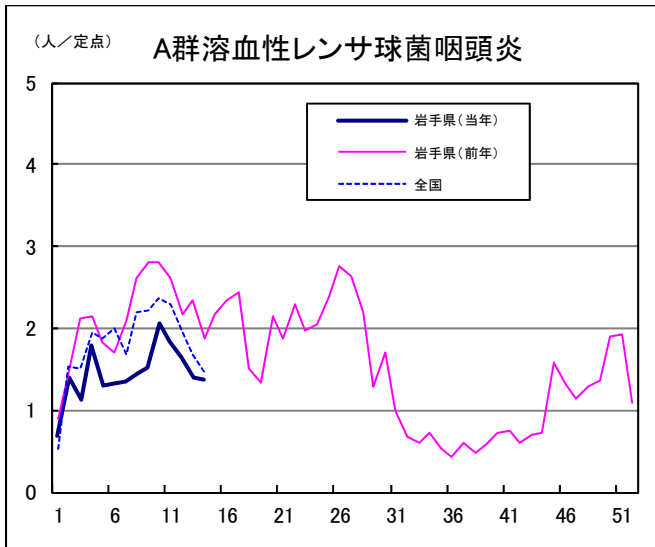
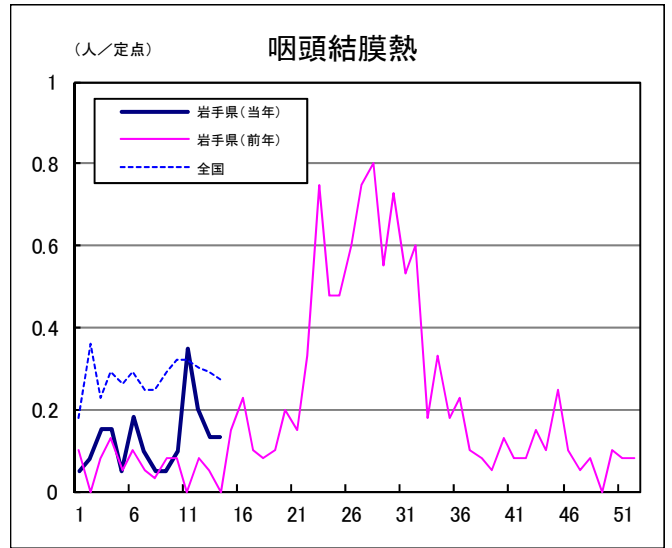
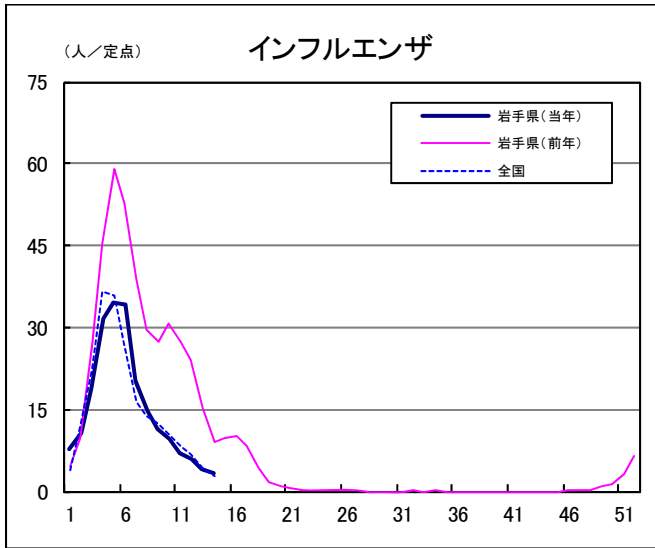
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

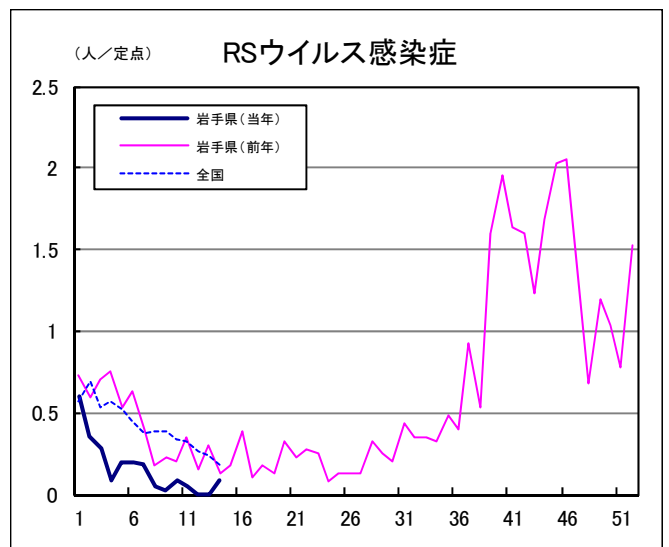
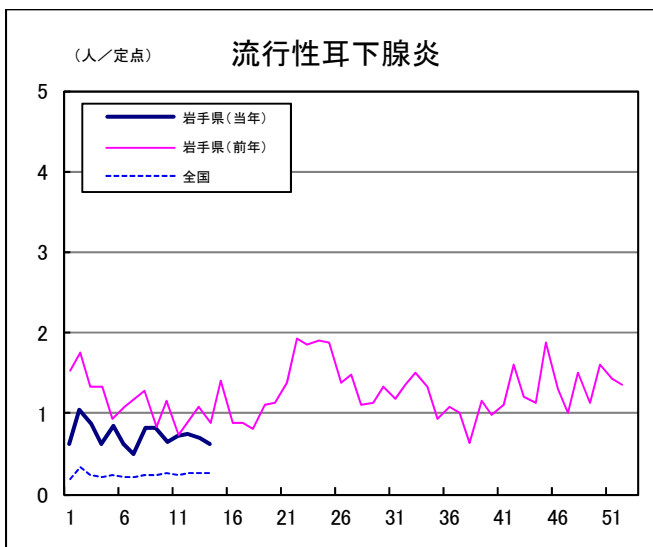
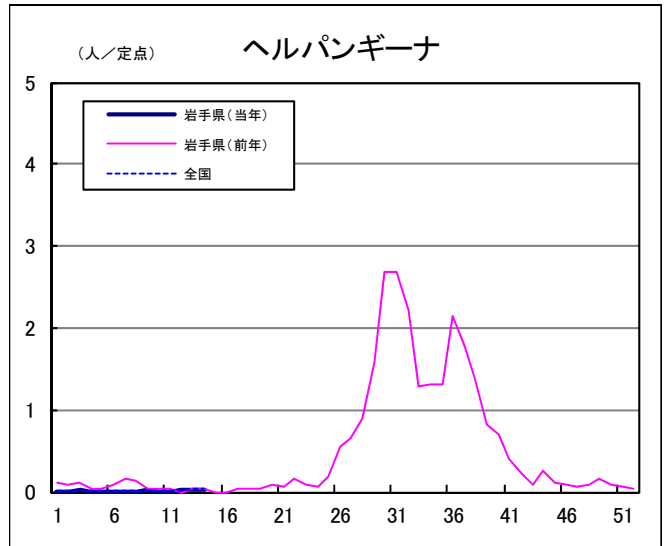
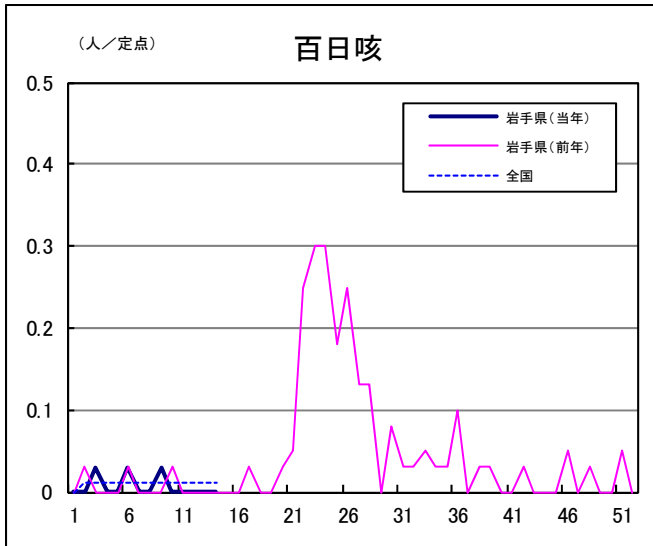
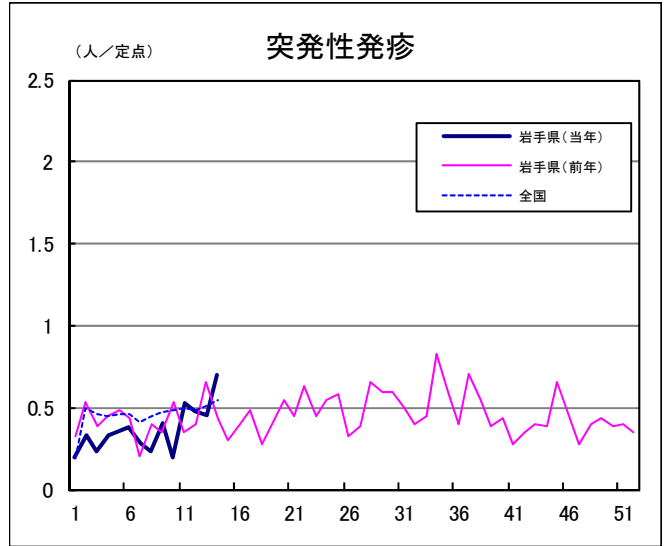
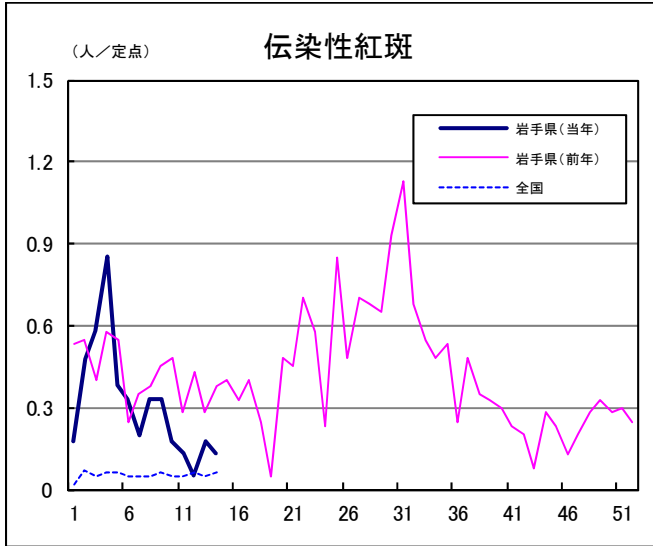
（平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。）

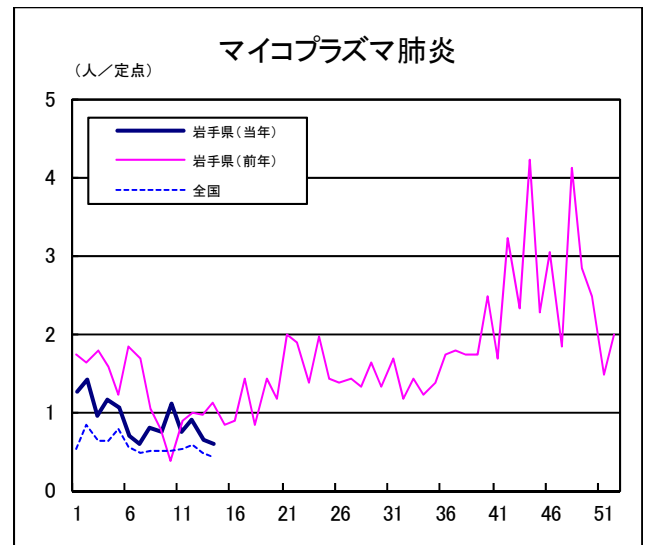
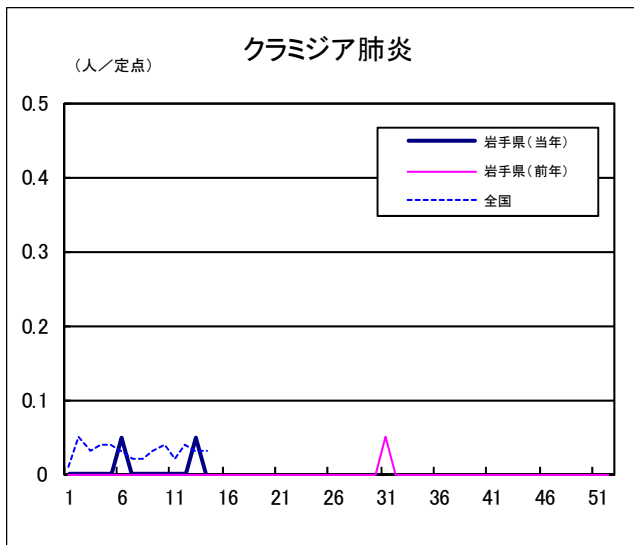
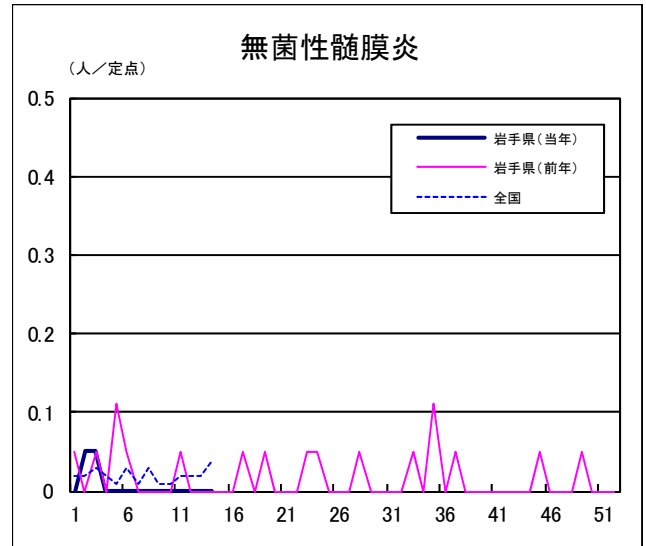
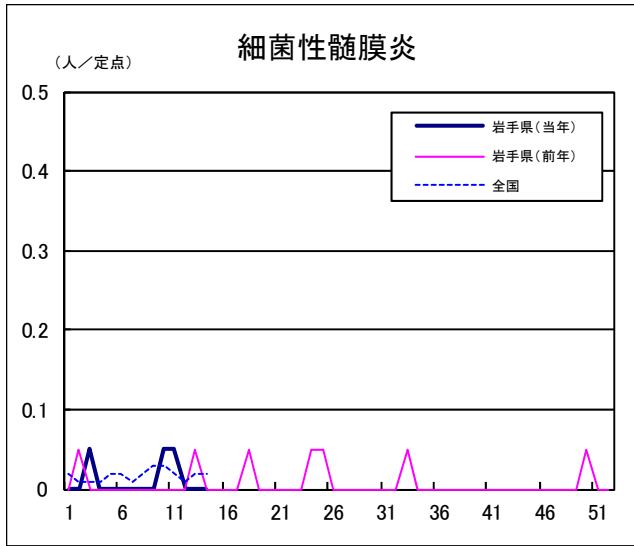
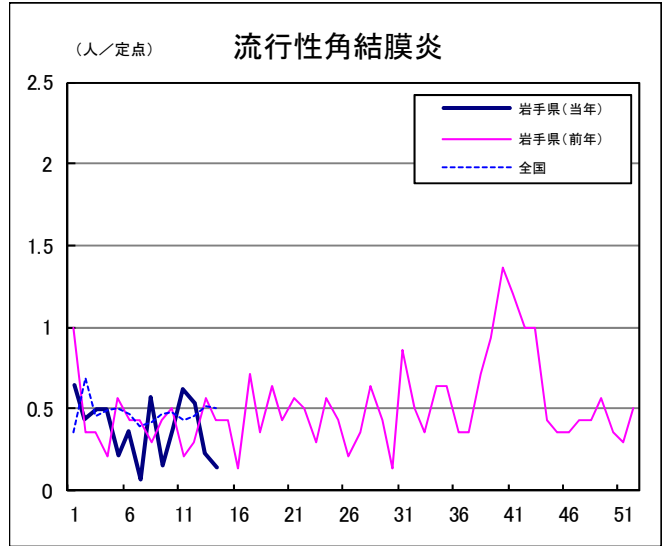
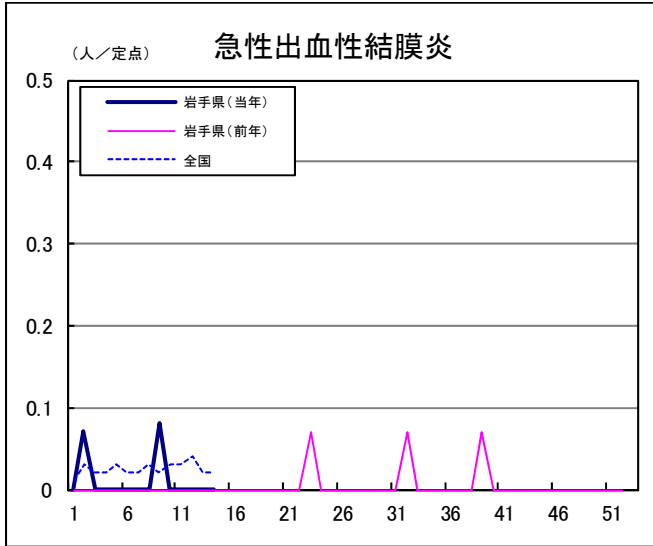
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)

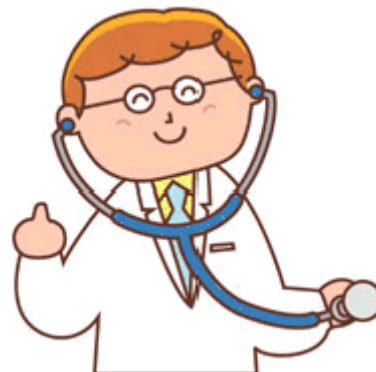






定点医療機関の数

地区	定点種別	インフルエンザ	小児科定点	眼科定点	基幹定点
岩手県		64	40	13	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		7	5	2	0
中部		12	7	1	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成25年第14週 平成25年4月12日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療推進課

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=345&ik=3&pnp=17&pnp=60&pnp=345>

<岩手県保健福祉部医療推進課>